



学校だより

みどりの

学ぶ当事者 支える当事者 緑野小学校

○考え伝え合う子

○心豊かな子

○元気な子

○やりぬく子

令和6年1月10日

飛躍する年に

校長 遠藤 昌司

この冬は暖冬といわれていた通り、年の瀬は12月とは思えない暖かな日が続きました。当たり前のように新年も穏やかに迎えられるものと思っていた矢先、能登半島地震により北陸地方が大きな災害に襲われることとなってしまいました。いまだに余震が続き、日々伝わってくる、その被害の大きさには、お見舞いの思いしかありません。一日も早く日常が戻ってくることを祈るばかりです。

学校には子供たちの元気な声が戻ってきました。冬休み期間中には大きな怪我や事故がなかったようで安心するとともに、職員一同、新鮮な気持ちで意気込んでいます。始業式当日、各担任は「お帰り」、「3学期も頑張ろう」などの言葉で子供たちを迎え入れ、中には辰年にちなんだイラストを黒板に用意しているクラスもありました。3学期は学校の一年としてはまとめの時期です。進級時に立てた各自の目標達成を目指すこととあわせ、担任の先生のもと、友達と協力し、学級としての仕上げもしてほしいと思います。

新年にちなんで、辰年の豆知識をあれこれ調べてみました。干支は、正しくは「十干(じっかん)十二支(じゅうにし)」と呼ばれるもので、今年は「甲辰(きのえたつ)」にあたります。甲とは「甲乙丙丁～癸」の始まりであり、物事の始まり、そして、辰は発芽した植物がしっかりとした形になる、勢いと大きな力、成功ととらえることができるため、この二つが合わさる「甲辰」は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられるそうです。十二支の中では、辰は5番目、唯一の架空の生き物、龍(竜)を意味しています。6年生は修学旅行の際、日光東照宮で「鳴竜(なきりゅう)」を見学したことを思い出すことでしょうか。中国の古い書物によると、竜はあらゆる動物の祖であり、造物主たる神のような存在であったので、竜の姿は「九似(きゅうじ)」といって、角は鹿、頭は駱駝(らくだ)、目は鬼、項(うなじ)は蛇、腹は蜃(みずち:想像上の動物)、鱗(うろこ)は魚、爪は鷹、掌(たなごころ)は虎、耳は牛に似ていると言われます。あごの下には1枚だけ逆さに生えた逆鱗(げきりん)があり、竜はこの逆鱗に触れられるのが大嫌いで、「逆鱗に触れる」ということわざの由来となっています。

あれこれと書き連ねてしまいましたが、今を当たり前と思わず、そして「竜頭蛇尾」となることなく「甲辰」にあやかって、子供たちのこれまで努力してきたことが大きく飛躍して、さらなる成長へとつながる一年となることを願っています。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。